

[研究ノート]

戦後台湾における高校の道德教育

The Moral Education of Taiwan's High School after World War II

山田 美香

Mika YAMADA

Studies in Humanities and Cultures

No. 30

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 30号

2018年7月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY
NAGOYA JAPAN

JULY 2018

[研究ノート]

戦後台湾における高校の道德教育

The Moral Education of Taiwan's High School after World War II

山田 美香
Mika Yamada

はじめに

1. 台湾の高校道德教育の歴史
 - 1.1 1970年代の高校道德教育
 - 1.1.1 三民主義
 - 1.1.2 公民
 2. 1980年代の高校道德教育
 - 2.1 三民主義
 - 2.2 公民
 3. 1990年代の高校道德教育
 - 3.1 三民主義
 - 3.2 公民
 4. 2000年代の高校道德教育
 - 4.1 公民と社会
 5. 現在の高校道德教育
 - 5.1 公民と社会
 - 5.2 生命教育
 - 5.3 キャリア教育

おわりに

要旨 本研究は、戦後台湾の高校において、どのような道德教育が行われたのか、教科書を中心に議論したものである。戦後、三民主義教育が道德教育に大きく影響を与えたが、しかし、最近では、道德教育に関わる科目がなくなり、特定の科目ではなく学校活動のあらゆるところで道德教育を行うことが進められた。これらのことから、台湾においては、道德教育が科目から外されたことで、学校教育において普段から道德教育を行うことが意識されている。日本の道德教育の「教科化」を議論する一環として、戦後台湾の状況を論じた。

キーワード：戦後台湾、高校、道德教育、教科書

はじめに

本研究は、戦後台湾高校の道德に関する制度、教科書に関する研究である。これまで日本では、小学校・中学校に「道德の時間」があったため、海外との比較研究も小中学校がほとんどであっ

た。本研究では、台湾の高校道德教育の意味について、その時代背景、現在の状況も含めて包括的に報告する。

台湾では、戦前・戦前は日本植民地時代の修身、戦後は「三民主義」「公民」「公民と道德」「公民と社会」「生命教育」など、多くの科目が道德教育に対応するものであった。時代によって道德教育科目は変更するものの、「公民」教育は一貫して行われ、現在は行われていないとはいえ、「三民主義」は2000年代に入っても行われていた。「公民教育」「三民主義」教育は、思想教育と同時に中華民国の歴史も教授したが、学校においてあらゆる教育活動の根幹として、特に大きな影響を与えてきた。三民主義教育は、長い間、台湾人に影響を与えたのである。

全面的に三民主義の思想教育を行うことで、台湾は、三民主義による国家を目指したのであるが、台湾においては、「公民」として、どのような人物が期待されたのであろうか。

現在、道德教育の研究校はあるものの、高校は、単独で、道德教育はないため、「公民と社会」の一部において道德の知識を学ぶことになっている。あくまで教科書から知識を学ぶものであるため、どこまで道德教育の実践を重視するのかは、学校によってまちまちである。

本研究では、国家教育研究院教科書図書館で収集した教科書から、道德教育に関連したものを報告する。戦後台湾で、「三民主義」教育は長い間行われていたが、李金振「我國高中三民主義教學內涵及實施成效之研究」（國立臺灣大學三民主義研究所,1980）「論文提要」には、「生徒が三民主義を学習したのち、三民主義の知識を各学科や日常生活に応用することに乏しい」「現在の高校の三民主義の大部分は説明による教育をとっている。生徒は十分に準備せず、自由に発言をすることも少なく、加えて教育時間も十分に充てられていない。そのため、討論式の教育の実施は確かに困難である」と書かれている。ここから分かるのは、思想教育を含めて道德教育を行っても、実際の生活には反映されないことが課題となっていたことである。つまり、台湾の高校における道德教育は、思想教育が中心であったため、実践を伴わないということが絶えず議論になったということである。

一方で、現在、高校には軍人がおり、「軍訓」の授業が行われる。軍人による軍事訓練を行い、集団でどのような行動をとったらいいのかを教える時間がある。

また、現在の時代に必要な多様な科目も学ぶことができ、生徒が自分から活動を展開するなかで、道德的実践力が高まることもある。

そのため、本研究では、1. 台湾の教育課程の変遷に伴う高校道德教育の歴史について、2. 現在の教育課程において、道德教育はどの科目に対応して、どのような道德性を身に付けることができるようになっているのかを論じる。

1. 台湾の高校道德教育の歴史

民国時期から「課程標準」（学習指導要領）が何度か改訂され、その後、1962年に「中学課程

標準」が改訂された¹。「課程標準」は、その後、以下のように改定され、それぞれの改訂で、道德教育に関わる以下の特徴があった。ただし、1962年「課程標準」をもとにした教科書が見つからなかったため、1970年代以降の教科書内容を論じる。

教科書のなかでも、「三民主義」と「公民」の教科書に「道德」の内容があることから、本報告では、「三民主義」と「公民」の教科書について述べていく。最近は、「生命教育」「キャリア教育」の教科書も出ていることから、これらも対象として論じる。

表1 課程標準の改訂と教科書

改訂時期	取り上げた教科書
1962年 中学課程標準	なし
1971年 高級中学課程 標準	<ul style="list-style-type: none"> ・国立編訳館『高級中等学校 三民主義課本 上冊（正中書局・幼獅文化公司）1976年8月三版 ・国立編訳館『高級中等学校 三民主義課本 下冊（正中書局・幼獅文化公司）1976年8月三版 ・国立編訳館『高級中学 公民と道德 第一冊』1973年8月三版 ・国立編訳館『高級中学 公民と道德科教科書 第二冊』1974年1月三版 ・国立編訳館『高級中学 公民と道德科教科書 第三冊』1974年8月三版 ・国立編訳館『高級中学 公民と道德科教科書 第四冊』1975年1月三版
1983年 高級中学課程 標準	<ul style="list-style-type: none"> ・国立編訳館『高級中学 三民主義課本 上冊』1986年8月初版、1989年8月四版、正中書局、幼師文化事業公司 ・国立編訳館『高級中学 三民主義課本 下冊』1987年1月初版、1990年1月四版、正中書局、幼師文化事業公司 ・国立編訳館『高級中学 公民教科書 第一冊』1984年8月初版、1991年8月八版 ・国立編訳館『高級中学 公民教科書 第二冊』1989年1月修正初版、1993年1月五版
1995年 高級中学課程 標準	<ul style="list-style-type: none"> ・黄人傑『高級中学 公民』南一書局、2000年8月初版、2001年8月再版 ・黄人傑『高級中学 公民』南一書局、2002年2月修正改版、2003年2月再版 ・詹淑琴・宋郁・陳惠珍・林志鴻『高級中学 三民主義 上冊』南一書局、1999年8月初版

¹ http://www.naer.edu.tw/ezfiles/0/1000/attach/26/pta_6918_8797662_01782.pdf#search=%27%E6%95%99%E8%82%B2%E8%B3%87%E6%96%99%E9%9B%86%E5%88%8A%E7%AC%AC%E5%9B%9B%E5%8D%81%E5%85%AD%E8%BC%AF+%E6%9D%8E%E5%9D%A4%E5%B4%87%27 2017年5月29日閲覧、李坤崇「台、日高中課程總綱の變革與比較」『教育資料集刊第四十六輯—2010 各國中等教育』（2010年）pp.57-58。

	<ul style="list-style-type: none"> ・詹淑琴・朱曉榮・宋郁・林志鴻『高級中学 三民主義 下冊』南一書局,2000年2月初版
2005年 普通高級中学 暫行綱要	<ul style="list-style-type: none"> ・周義原・詹淑琴・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第一冊』南一書局,2006年8月初版、2008年8月修正版 ・莊惠然・詹淑琴・楊佳運・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第二冊』南一書局,2006年2月初版、2008年2月修正版 ・莊惠然・詹淑琴・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第三冊』南一書局,2007年8月初版 ・張徳聡主編『普通高級中学 生涯規画』幼獅文化事業股份公司,2006年7月初版 ・李昱平等『普通高級中学 生命教育概論』旻新圖書公司、出版年不明
2008年 普通高級中学 綱要	<ul style="list-style-type: none"> ・莊惠然『公民と社会 第1冊』南一書局、2010年8月初版、2012年8月再版 ・鄧毓浩『公民と社会 第3冊』南一書局、2011年8月初版、2013年8月再版

1.1 1970年代の高校道德教育

1.1.1 三民主義

1971年「中学課程標準」に関連して、国立編約館「高級中等学校 三民主義課本(全二冊)」(正中書局・幼獅文化公司、1976)の内容について述べる。

教科書の「編輯大意」において、三民主義は、「完全に国父の遺教、蒋介石総統、および国家の現行法令政策を準拠とし、つとめてそれを融合貫通させることを求める」と書かれている。

教科書全体を通して、「国父」孫文の三民主義をそのまま引用し、それに対する説明は丁寧で、孫文の思想を理解するには大変分かりやすい教科書といえる。しかし、三民主義は本来優れたものであるが、国民党が支配すべき大陸に共産党がいるゆえに、三民主義が本来の姿となっていない、という考えが根底にあり、教科書のなかで絶えず共産党批判がみられる。

台湾における三民主義思想は中国の伝統思想をもとに作られ、「中国は、数千年も前に民権思想があった」²と、中国の孔子・孟子の思想に民権思想(三民主義の一つの民権思想)が見られること、国民党は本来中国にあるべきことを述べ、中国独自の民権思想は、世界でも早い段階にあったことを強調している。中国独自の思想は、つまり台湾の思想であることから、孔子の「忠孝、仁愛、信義、和平」は「固有の道德」として挙げられている³。孫文は、「三民主義は、すなわち、仁が表現するところのものだ」⁴が言ったというが、孫文は、世界各地に足を運んだことがあるため、「欧米の社会科学や政治制度」について学んでおり、その点、三民主義は中国の伝統的な概念

² 国立編約館「高級中等学校 三民主義課本 上冊(全二冊)」(正中書局・幼獅文化公司、1976), p.90。

³ 同上, p.16。

⁴ 同上, p.17。

だけで成立したわけではないとも言える⁵。中国にあるべき台湾の国民党が持つべき思想として三民主義があるべきものだというが、孫文の考え方は、中国と欧米の多様なものを取り込んだ思想である。ここから、教科書における三民主義の説明を紹介していきたい。

・三民主義とは何か

第一課「人類が臨む三大問題」では、「民族・民権・民生」の三民主義について議論を進め、台湾だけでなく、欧米の状況についても記している。また、「三民主義の意義」も述べられている。

・民族

第三課「我が国と世界民族問題」では、「国父が亡くなり、蒋介石総統がその遺志を継いで、民国 17 年北伐、民国 32 年不平等条約を廃止し、民国 34 年日寇に戦勝した」⁶と、蒋介石が孫文の考えを継いで、当時の帝国主義との不平等条約を廃止、また、1945 年に日本との戦いに勝ったという、日本に関連する歴史が、教科書のなかに何度か出てくる。

三民主義の「民族」については、第六課「共産党の民族主義利用の陰謀」において、レーニンの帝国主義論、共産党による「民族」「民主」「階級闘争」に関わる理解、さらに毛沢東の民族主義の利用など、本来の民族主義と共産党が言うところの「民族」が異なるものであることを論じている⁷。

このことから、第七課「我が国の民族復興運動」では、「台湾が民族復興運動をする」ことは、結局、「中国大陸は台湾のものである」ことを認めさせるもので、「民族団結の強化」、そのうえで、「反共産党の大業を完成させる」ことが考えられていた⁸。民族復興運動は、最終的に、台湾が中国大陸を支配することであった。その一方で、「国際正義の堅持」「永久平和の促進」も、「実践的要務」としている⁹。つまり、台湾にとって、三民主義は反共産党政策の中心的な考えであり、第八課「民権問題と民権革命運動」では、「革命運動」による「共産主義の暴政を翻す」ことも目的としている¹⁰。ただし、国内の維持のために、三民主義教育による国内の思想統一も重要視されていたことから、一概に、三民主義は、共産党に対する思想とはいえない。

この点については、教科書の最後に、第十一課「共産党専制の罪悪」、第十二課「我々の政治建設」としてまとめられ、台湾の社会建設では「民主憲政」「地方自治」「維新政風」¹¹も必要と考えられている。

・民生

⁵同上,p.18。

⁶同上,p.32。

⁷同上, pp.63 - 74。

⁸同上,pp.82 - 83。

⁹同上,pp.83 - 85。

¹⁰同上,p.96。

¹¹同上,pp.142 - 146。

第十三課「民生問題の発展と進化」において、三民主義による経済発展と「共産新奴隷社会」の人々の生活について、社会背景の違いによる生活の問題を述べている¹²。第十六課では、「共産主義の破産」と、共産主義理論の間違いについて書かれている¹³。それより先は、三民主義の文化・哲学・世界について基本的に理論紹介をしている。

先行研究でも、この時期の教育・三民主義について、台湾の大陸支配の必要性と課題について述べるのが中心だと議論されているが、実際に教科書の内容を見ることで、そのような議論を基に構成されていることが改めて明らかとなった。

1.1.2 公民

国立編訳館『高級中学 公民と道徳 第一冊』（1973）は、「1971年『公民と道徳』課程標準で編集された」¹⁴教科書である。

教科書の最初のページに、「国父及び総統の言論は、我々の立国精神の依るべきところである」¹⁵と、孫文と蒋介石の思想の重要性が述べられている。

・道徳的認識と道徳的実践

教科書では、道徳とは何かということに始まって、中国独自の道徳、西洋の道徳、現代の青年に必要な道徳と、理論、歴史、現代の青年の課題に必要な道徳について説明をしている。

第一章では、「道徳的認識と道徳的実践」について、2点を述べている。「第一に、確かな信念を持つべきで、徹底して気質を変化させ、良くない習慣を除き、高尚で優れた道徳行為を樹立する」「第二に、絶えず奉仕を行うことができる必要がある。というのは道徳の実践は、終身の努力でやめないことが大事であるからである」¹⁶と、道徳的信念・実践の重要性について書いている。

第二章「我が国の固有道徳」においては、中国の道徳は「我々中華民族の最も尊い文化遺産である」として、「周礼のなかで『六徳』『六行』と言っているものである。六徳とは、知、仁、聖、義、中、和で、六行は、孝、友、睦、親、任、恤で、六徳は道徳の修養で、六行は道徳の実践である」¹⁷と、古代の六徳六行を説明している。

第四章「我が国固有道徳と倫理の維持発揚」からは、民族的地位を回復するため、学校現場で、中国における伝統的な道徳を教える必要性を述べている。その「道徳と倫理の維持発揚」のために最も重要なのは「道徳的実践」「道徳教育の強化」が必要であり、以下の3点から道徳的実践のあり方について説明している¹⁸。「1 家庭の倫理教育の発揚、2 学校の道徳教育を強化する、3 社

¹²国立編訳館「高級中等学校 三民主義課本 下冊（全二冊）」正中書局・幼獅文化公司、1977年、pp.5 - 7。

¹³同上、pp.33 - 43。

¹⁴国立編訳館『高級中学 公民と道徳 第一冊』民国62年8月3版、編輯大意。

¹⁵同上。

¹⁶同上、p.3。

¹⁷同上、p.5。

¹⁸同上、p.30。

会の生活教育の重視」¹⁹である。人々の生活のなかで、道德強化が行われる必要があるというものであった。

現代の青年については、第八章「現代青年の道德修養（二）」において、「道德修養は、必ず内から外、自分から人に及ぶもの、つまり、一個人の品德から国家社会に対する責任と貢献に展開、及ぶものである」²⁰と書かれている。倫理道德と個人と社会との関係について、青年の問題は青年自らが修養し、それが結果的に、その周囲、国家社会により良い効果をもたらすという考え方が見られた。

この時期の教科書は、道德を認識し、そのうえで道德的実践を求めるもので、生徒は、あくまで政府が要求する道德を守る必要があったのである。

・社会と倫理

第二冊は、社会と倫理について考えたもので、現代の青少年の問題について、思想教育を強化しつつも、一方で、社会環境を整備すべきことを述べている。

「第八章 社会問題の発生と解決の道」では、「何年も、世界各地で普遍的に青少年問題が発生している」²¹「我が国の青少年はその他の国の青少年に比べて勤勉奮発、秩序を順守し、責任感に富む。しかしある少数の分子は、意思は固くなく、邪悪な風習を受け消沈妄想、犯罪傾向に至る。青少年が安心して学ぶことができるため、就業の準備をし、自己を磨き、さらにこれ以降の人生の理想を持たせる」²²と説明されている。台湾の青少年は基本的に真面目であるが、しかしながら一部の青少年に課題があると述べられている。

この青少年の課題解決のため、「思想教育の強化」では、「青少年に国家と民族に対して正確な認識、深い感情を持たせる」という、政治教育による、よりよい国民への道を論じている²³。ここから、「社会の風紀の革新」「世代間の差を縮める」「就学就業の補導」と、「青少年が努力して勉強する機会があれば、真面目に仕事をして、自己を充実させることができ、潜在的能力を發揮し、国家社会に貢献できる」と書いている。青少年の環境に関わる問題がなくなれば、青少年もまじめに勉強し、社会の発展にもつながるという理解に基づいて論じられていた²⁴。

・民主政治と法律

第三冊は、民主政治と法律について書いている。

「第十章 我が国の建国の理想」は、理想とされている台湾の大陸支配が難しい現状と、一方で、台湾国内では社会建設が進んでいることが述べられている。

¹⁹同上。

²⁰同上、p.53。

²¹国立編訳館『高級中学 公民と道德科教科書 第二冊』中華民國 63 年 1 月三版、p.52。

²²同上、p.53。

²³同上。

²⁴同上。

三民主義は我が国革命建国の最高指導原則で、三民主義の模範省を建設し、進んで大陸を光復し、三民主義を中心とした新中国を建設する。これは、わが国建国の目標である。中華民國は、今に至るまで既に61年、その間、内憂外患によって、国家建設はいうほど展開することができていない。建国の理想の実現は難しい。1949年以後、政府は台湾地区を復興基地とし、積極的に建設に従事し、国父の建国に関する遺教は十分に実施され、民族独立、民権の普及、民生が良くなる効果を得た²⁵。

1970年代において、最も重要なことは、中国との関係であった。第四冊においても、同様のことが書かれている。中国大陸との関係について、「共産主義を推進することは、我が国固有の文化道徳と自由民主の思想を消滅させることになる」²⁶と、共産主義が中国を支配すると、伝統的な文化を失うことから、本来、中国を支配する立場にないことを述べている。この時期までは、学校における道徳教育は特定の思想教育が中心であり、現在の視点からすれば、教科書で特定の思想を再三繰り返すことに違和感を感じる。しかし、当時の台湾は、自分たちが中国を支配すべき立場にあることを多方面に向けて繰り返す必要があり、それは、国内の子どもの教育でも同様であった。

2. 1980年代の高校道徳教育

2.1. 三民主義

1983年課程標準における「三民主義」の教科書(1989年)には、「本書は、国父の遺教、先の総統蒋介石の言論、政府の現行法令政策と国家建設の状況を準拠に、つとめて融合貫徹するよう論を立てたものである」²⁷と、孫文と蒋介石の言論を前提とした、三民主義の正しい解釈をした教科書であるという書き方がなされている。1980年代になっても、これまでと同じように、孫文と蒋介石の言論が中心の教科書のあり方は変わっていないといえる。三民主義は一つの思想という理解ではなく、あくまで、孫文と蒋介石という個人の言論であるという理解がなされている。

「三 国民革命の進展と時期」は、孫文、蒋介石における三民主義とは何かを述べている。中国共産党による大陸支配は様々な問題を抱えるが、そのため三民主義によって大陸を復国することの必要性を書いている²⁸。この点は、どの教科書も同じ論点と言える。

例えば、「中国共産党は大陸を盗み占拠したのち、前後して『文化大革命』を進め、『四旧を破壊し』、さらに、みな我々民族の復興運動に対する破壊を行い、かつ絶えず『階級闘争』を進め、甚だしくは、『闘争100年、1000年、1万年必要だ』と叫び、中国人を反覆的、残酷で、非人間的な恐怖に陥れた」という内容は、当時の中国の10年にわたる階級闘争に対する批判と考えること

²⁵国立編訳館『高級中学 公民と道徳科教科書 第三冊』中華民國63年8月三版,p.86。

²⁶国立編訳館『高級中学 公民と道徳科教科書 第四冊』中華民國64年1月三版,p.38。

²⁷国立編訳館『高級中学 三民主義課本 上冊』中華民國75年8月初版,中華民國78年8月四版,正中書局,幼師文化事業公司,編輯大意。

²⁸同上,p.25。

ができる²⁹。そして、三民主義が実施されれば、このような中国の階級闘争は行われなとも書かれている。「基本理論から言うと、共産主義の根拠となるマルクス、エンゲルス、レーニン等の人物の理論で、唯物史観、階級闘争は仇をもって出発点としている。民権主義の政治の根拠とするところは、すなわち、国父の三民主義理論で、仁愛を出発点として、救世、救国、救人である」³⁰。階級闘争は出発点が仇であるが、三民主義は出発点が愛であることから、階級闘争をしている中国を批判しているのである。台湾と中国では思想の違い、国情の違いがあることを指摘し、一方で、中国において台湾が三民主義を実現することで階級闘争を終えることができること、階級闘争がある中国の政治体制の問題を指摘しているのである。

2.2. 公民

1983年「高級中学課程標準」をもとにした国立編訳館『公民』（1991）の教科書4冊のうち、「第一冊が『心理と教育』、第二冊が『道德と文化』、第三冊が『法律と政治』、第四冊は『経済と社会』が範囲」³¹で、道德に関わるのは第二冊であった。「本書は、国父の遺教、先の総統蒋介石の遺訓及び現在の国策を主に論を立て、現代国民の立身処世の道理及び個人の家庭・社会・国家と人類文化の責任に対して述べるものである」³²というように、孫文と蒋介石の思想教育と、個人として何を学ぶべきかが中心とされた。孫文と蒋介石を学ぶことが中心であることは、これまでの三民主義教育や公民教育と何の変わりもない。

第一冊の「心理」の部分で、道德教育に関連するところは、心理学から見る道德的行為・人格に関する記述が多い。

第二冊第一章「道德の意義と規範」では、道德が、人間の本性とどのように関わるかについて、次のように論じている。「一 道德があればある人ほど、自分で行き、自分で責任を負うものである」³³「二 道德は人と人との関係性においても受け入れられるものだ」「道德は実践するとき、往々にして終局性を示す（自分の命と引き換え）」³⁴というものである。一方で、「道德的行為は人の意志によって行われ、道德的行為の実践は必ず外在的規範に合わせるべきである」³⁵と、外在的規範があつたうえでの道德的実践力について述べられている。

その道德的実践については、「道德は教条ではなく、また掛け声でもない。行動が必要である。ならびに行動の過程のなかで、人が自我の実現目標を達成させるものである。これによって、我々は、広い角度から、『成功の道を歩くこと』を志向することを妨げず、そのなかのそれぞれの一歩が、みな、直接間接的に道德修養に基づくものである」³⁶と、道德的実践力の必要性を言っている。

これまでと同じように、共産主義思想に対しては、「中華文化復興運動を起こし、内外の同胞が

²⁹同上, p.92.

³⁰同上, p.158.

³¹国立編訳館『高級中学 公民教科書 第一冊』中華民国73年8月初版, 中華民国80年8月八版, 編輯大意。

³²同上。

³³国立編訳館『高級中学 公民教科書 第二冊』中華民国78年1月修正初版, 中華民国82年1月五版, p.4.

³⁴同上, p.5.

³⁵同上。

³⁶同上, p.46.

中華文化を維持し、共産主義思想を消滅させ、大陸国土を光復する奮闘精神を励ます」³⁷と、台湾の大陸に対する考えに変更はない。つまり、1980年代までは、同様の思想教育が重視されたのである。

3. 1990年代の高校道德教育

この時期は、李登輝総統時代で、民主化された時代である。道德教育を含めて、すべての教科書が民間出版社によって出版されるようになる。つまり、これまでの「一教科、一教科書」という状況とは異なり、検定はあるが、多様な教科書のなかから選ぶことができるようになった。教科書が自由に作成されるようになったことで、大きく教科書の内容も変わった。

3.1. 三民主義

詹淑琴・宋郁・陳惠珍・林志鴻『高級中学 三民主義 上冊』（南一書局、1999年8月初版）は、「教育部民国84年10月頒布の高級中学三民主義課程標準により編輯した」、要するに、1995年の課程標準で作られたものである。

戦後継続して行われている三民主義教育は、これまでとは異なり、「その目的は、生徒に、初歩の三民主義が生まれた背景、思想、および当時の各種学説思潮との関係を理解させることにある。生徒が、広く思考し、理性的に国家民族の前途を探索する力を養成することを希望する」（編輯大意）と、三民主義思想を学ぶが、三民主義が今後どのように生かされるのか、自ら考える力をつけることも重視された。

この教科書は、孫文に関連する写真が多い。孫文に影響を与えた人物についても写真入りで紹介がある。これまでは三民主義に対する解釈が多かったが、三民主義がどうして生まれたのか、関連する思想家を並べることで、多様な視点で三民主義が分かるようになっている。当時の思想状況、他にも洋務運動、変法自強運動等、孫文の革命より前の中国の民族主義的な運動についても述べている。三民主義と同じ時代の、欧米の思想家に関する丁寧な紹介も含まれている。アジア、その他の地域について、欧米列強が侵略した影響も書かれ、三民主義から、当時の状況を学ぶ歴史教科書のようなようである。

第二課は、孫文の三民主義がいつ考えられ、三民主義思想は何のために必要であったのか、三民主義の多様なキーワードとともに、歴史的な背景と史実を史料にもとづき説明している。この教科書は、『国父全集』から孫文の言葉を引用しているが、以前の教科書は、蒋介石による「孫文の理解」の引用が中心であった。現在の孫文研究の状況が教科書に示され、決して、蒋介石解釈の教科書のような作りとはなっていない。

第四課「民族主義」は、民族主義の言語について、「日本統治時代、日本人が『皇民化政策』を提唱し、強く台湾の同胞に日本語を学習するよう求めた。これは台湾人を同化させたいというも

³⁷同上, pp.100-101。

のであった」³⁸。三民主義は、日本がアジア侵略をした時期と重なる時に、孫文により作られた思想である。そのため、日本の台湾植民地支配の言語統治についても書かれている。しかしながら、台湾と中国の関係については書かれていない。

下冊は、現代的な意義を添えて三民主義の理解を進めつつ、現代の課題に対して、三民主義がどのように対応できるのかが書かれている。

台湾にいる我々は、同じように中国人の大陸同胞に対し、現代化の建設方向を思索迫及するとき、三民主義の台湾における建設の経験を提供する義務がある。畢竟、海峡兩岸の各方面の水準が近づくこと、それは我々台湾の生存安定の重要な拠り所となり、また、国家が統一に向かうことができるかどうかの重要な基礎となる³⁹。

三民主義の民生史観から唯物史観を評価、あるいは社会互助から階級闘争を批判、社会価値から剰余価値を批判など、単なる政治批判に終わらず、資本主義の三民主義と社会主義のマルクス主義の特徴を述べている。

3.2. 公民

1995年課程標準による黄人傑『高中 公民』南一書局（2000年8月初版、2001年8月再版）において、第一課・第二課が人格と心理学の問題、第三課がキャリア教育、第四課が社会問題と文化に関わる問題、最後の第十課が中華文化について記されている。4冊の教科書のうち、第二冊が「道德、法律」で、道德と法律（刑法）を一緒に学ぶ教科書となった。この時期には、「生徒の思考判断能力を高める」⁴⁰ことが重要となる。

第一課には、羅大佑「光陰の故事」が紹介され⁴¹、それぞれ1課ごとに、最初のページで、その課に関わる内容の物語などが紹介されている。これまでの理論紹介中心の教科書とは大きく異なるのは、大変カラーが多く、漫画や写真、図表が使われ、見やすい点である。それぞれの課の写真のなかには、勉強している子ども、暴走族、東京ディズニーランドも載せられている。

文化に関する内容においても、「バートランド・ラッセル、文化の種類」⁴²について説明をしている。文化はこうあるべきものだと示すのではなく、若い人が理解しやすい文化の提示の仕方がなされている。「文化多元主義」の箇所では、「文化相対論」の説明もなされている⁴³。多様な原住民がいる台湾では、文化多元主義は社会的に意味があるが、これまでの教科書には原住民に関して書かれることはなかった。この点は、90年代ゆえの教科書と言える。

³⁸詹淑琴・宋郁・陳惠珍・林志鴻『高級中学 三民主義 上冊』南一書局,1999年8月初版,p.42。

³⁹詹淑琴・朱曉榮・宋郁・林志鴻『高級中学 三民主義 下冊』南一書局,2000年2月初版,pp.118 - 119。

⁴⁰黄人傑『高中 公民』南一書局,中華民國89年8月初版,90年8月再版,編輯大意 p.2。

⁴¹同上,p.4。

⁴²同上,p.104。

⁴³同上,p.114。

これまでの公民の教科書では、中国との関係に関する強烈な記述があったが、「政府が台湾に移ってから民国五十年代の中期まで、台湾政治は日増しに安定し、経済も反映し、人々は次第に物欲を追求し、人文道徳を無視した。その次に、この時期、中国共産党は、大陸で『文化大革命』を起こした」⁴⁴と、中国共産党批判はしているが、これ以上のことを書くことはない。現代の社会問題と文化を強調する内容で、政治的な問題はほとんど関心がない教科書となっている。

続いて、第二冊は、「道徳と法律」が一緒に教科書にとりこまれているが、法律の方が、分量が多い。

道徳に関する説明は、「字義から言うと、『道』は人の生活中で遵守すべき普遍的な原則である。『徳』は徳行で、『道』も人類の生活の中で実際に体現するものである。道徳の観念は、人の心に形成する一種の価値で、人の品行、守るべきこと、人格と関連する価値である。この種の価値は我々の事物の判断に影響をする」⁴⁵と、儒学概念が多用されることなく、現代的な分かりやすい説明をしている。

また、道徳観念が道徳的規範となり、またその道徳観念が道徳的価値として認識され、個人のうちにその道徳的価値を持つようになると、それがどのように道徳的実践力となるのか、その点について説明もある。道徳的行為が難しい場合、「道徳的勇気」が必要を述べている。

「社会ごとにみな一定の道徳的観念があり、これらの観念が具体的な規範に発展する」「信念、観念から価値に至るものも、一人の個人の道徳に対する個人の内にある考え方を構成する。この内在的な考え方は、我々に外面の行為を導くのである」「しかし、我々はあえて道徳的行為をしない環境に対しては、このとき我々は『道徳的勇気』を持つべきで、我々の正確な方向の選択を支援する。これで道徳的信念、規範、価値が実行されることになる」⁴⁶と、個人の内における道徳的価値が、道徳的勇気を持った時に、道徳的行為となると記している。

第二課「我が国伝統の道徳観」では、「天人合一」「仁民愛物」「礼儀強化」⁴⁷と、これまで通り儒学観念を説明するが、一方で、「この種の話の中には、一種の『過去は現代よりいい』という価値観を含む。ただ、人々が伝統を回復する道徳修養をすれば、社会の風紀は、問題の解決ができるというが、過去の価値観を持ち出しても、現代の道徳として意味がなければ、『過去が良かった』と言うものではない」⁴⁸と、書いている。

これまでは倫理道徳があれば社会問題がなくなるという考え方が中心であったが、「変遷の過程のなかで、伝統的規範が人の心をまとめることができないう状況がある。新しい規範は、またすぐに十分に作られる現象もなく、これにより、『秩序がない』状態の下で、人々が従うところがないため道徳的なものが低くなり、自己が価値判断をする時、どれを優先させるのか、道徳価値の瓦解を多く導く結果となっている」と、現在に適した倫理道徳がないことを問題だと言って

⁴⁴同上, p.123。

⁴⁵黄人傑『高級中学 公民科第二冊 道徳と法律』南一書局, 中華民國91年2月修正改版, 中華民國92年2月再版, p.5。

⁴⁶同上, p.6。

⁴⁷同上, pp.17-18。

⁴⁸同上, p.29。

いる。しかし、「道德的価値は自然に新しく作られるものである」⁴⁹と、その時代に必要な倫理道德は、自然に出てくるもので、あえて、規範を作り出すことは不要であると書いている。

4. 2000年代の高校道德教育

4.1. 公民と社会

2005年「普通高級中学課程暫行綱要」をもとに作成された周義原・詹淑琴・周文女『公民と社会』（南一書局, 2006）も、「道德と法律」がセットに学ぶことになっており、道德的価値と法律について考えさせるものとなっている。「第一冊が『心理、社会と文化』、第二冊が『教育、道德と法律』、第三冊が『政治と民主政治』、第四冊が『経済と永続的な発展』を範囲」⁵⁰としている。

第一冊「心理、社会と文化」では、第一課「自我と社会」において、青少年の自己形成に関する図が示されている。

自我と社会—自我の形成—社会化と「自我」の形成、「身体」と「心理」の社会性

人格の類型と発展—人格の類型、人格の発展

青少年の発展—認知・道德・情緒・集団の発展

青少年の圧力—圧力の意義と形成（圧力は一種の刺激、反応、動態の経緯と結果）、
情緒管理と圧力の調整（自己の情緒の観察、適した情緒を表現する、
合理的に情緒を穏やかなものとする）⁵¹

コーリー、ミード、フロイトで自我を説明しており⁵²、フロイトの三つの我（本我 id、超我 superego、自我 ego）の紹介もある⁵³。公民の教科書で、心理学が最初に出てくるのは、この時期の生徒に重要な自我の発達の問題があるためであろう。

第二冊は、規範について、道德規範、社会規範から述べている。第一課が「教育、公民の素質と生涯学習」で、自ら受ける教育が公民となるために必要なものとして書かれている。高校で教育学を学ぶ機会があるのは、在学中の生徒にとっていい経験であろう。

「第一課 教育、公民素質と生涯学習」「二学校生活の適応」には、「学業適応問題、教師と生徒間の関係の問題、同級生の人間関係問題、規範適応問題」⁵⁴について書いている。学校生活の様々な問題について、その解決の糸口についても論じており、それは高校生にとっては直接効果がある教育かもしれない。

⁴⁹同上, p.32。

⁵⁰周義原・詹淑琴・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第一冊』（南一書局, 2006）民国95年8月初版, 民国97年8月修正版, p.1。

⁵¹同上, p.5。

⁵²同上, pp.7-8。

⁵³同上, p.10。

⁵⁴莊惠然・詹淑琴・楊佳運・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第二冊』（南一書局, 2007）民国96年2月初版, 民国97年2月修正版, p.11。

第二課「倫理、道徳と社会生活」では、倫理、道徳、社会生活の関係について、以下のように示されている。

- ・ 倫理、道徳と生活—倫理と道徳の関係、倫理と道徳の重要性（価値判断の基準を提供し、人生の意義を実現する。個人の行為の規範、社会秩序の維持、個人が責任を負うことを促す、社会生活の倫理道徳性を高める）
- ・ 道徳規範の形成と変遷—道徳規範の形成の原因（人類本性の発揚、宗教教義の影響、社会生活の必要）、道徳体系の変遷と多元性（道徳体系の変遷、道徳体系の多元性）、伝統社会と現代社会の道徳観（伝統社会の道徳観、現代社会の道徳観）
- ・ 公德心と社会生活—公德心の意義と重要性、公德心の養成と実践（公德心の養成、公德心の実践）
- ・ 公共倫理の重視と強化—学校の倫理、仕事の倫理と経済倫理（仕事の倫理、経済倫理）、科学技術の倫理と情報倫理（科学技術の倫理、情報倫理）、生命倫理⁵⁵

第二課「倫理、道徳と社会生活」において、倫理は、「人類の集団生活の中で、各種社会関係で遵守すべき規範である。例えば、儒家思想の中の強調すべき五倫で、『父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信』、つまり、父子、君臣、夫婦、長幼、友人の5種の社会関係に従うべき規範がある」と、儒家思想が紹介されている。さらに、道徳と倫理については、「道徳は個人の徳行の実践に傾き、倫理は社会関係と社会規範を強調する」と、道徳は個人の内なるもので、倫理は社会関係がなければ成立しないものだとしている⁵⁶。

現在の台湾の状況として、「我が国の社会を例にすると、経済の発展に従い、多くの若い人は都会に向かい、教育と仕事の機会を探し、続いて都市で結婚し子どもを産んで、核家族を形成した。新しい教育はこれらの人を次第に男尊女卑の倫理観念から抜け出させた。これによって、過去の『以父権為尊』『尊重伝統』の規範も次第に薄くなっていった」⁵⁷と書かれている。規範が徐々になくなりつつも、「異なる価値と道徳規範を尊重することは、社会においてそれを並存させ、そのなかから学習し、またモデルとすることで、さらに豊富な道徳的なものを成就することができる」⁵⁸と一つの価値・規範ではなく、様々な価値・規範が重視されるようになったことを述べている。

また、公德心は、「他人の権益を尊重すること」⁵⁹と書かれているが、「公德心の養成と実践」では、「1. 優れた事例を広める、2. 思弁を通して疑いを明らかにする、3. 個人の道徳に関わる勇気と良知を励ます、4. 行動の経験のなかで公德心を建立する」⁶⁰という方法で、自分とは異なる人の権利を考え、尊重することが示されている。

⁵⁵同上,p.27。

⁵⁶同上,p.28。

⁵⁷同上, pp.32-33。

⁵⁸同上,p.33。

⁵⁹同上,p.37。

⁶⁰同上,p.38。

公共の倫理という視点では、「速い社会変化の影響を受け、現在の学校の倫理は既に部分的に偏りがある現象がみられる。セクシャル・ハラスメント、体罰、ネットいじめ、校内暴力等で、これらの現象を生んだのは、教師と生徒の感情が疎遠、学校当局の管理が不当、進学競争、生徒が学校の権威に挑戦、あるいは教育価値の混乱等の原因が致すところである」⁶¹と、これらをなくす努力の必要が書かれている。

「社会的弱者と差別」では、「婦女、心身障害者、原住民」の差別をなくすべきことを述べている⁶²。単に倫理道徳を守るのではなく、現実の学校における教師、友達との関係や、社会的弱者における差別に関連して、倫理・道徳、公德心を考える文章となっている。

第三冊の第七課「两岸関係」には、下の図が示され、台湾と中国大陸の歴史についてまとめている。

两岸関係—两岸関係の変化—どこが治めたのか歴史と現実、現在の两岸関係問題の所在

- 大陸の対台湾政策—中国大陸が两岸関係を処理する原則、中国大陸の台湾に対する主要な政策
- 台湾の大陸政策—台湾の两岸関係処理の原則、台湾の大陸に対する重要な政策
- 两岸が互いに未来を展望する—两岸それぞれの政治社会経済の変化、国際政治の影響、两岸各交流の現況と展望⁶³

しかしながら、「軍事衝突時期（1949-1978）」は、大変厳しい武力闘争の時代で、『古寧頭戦没』（1949年）、『八二三砲』（1958年）等の戦争が発生したが、「1954年、朝鮮戦争が終結し」「1960年代以降は軍事衝突が少なくなった」というように、中国と台湾でどのような衝突が起きたのかを説明をしているのみで、そこに中国に対する批判はない⁶⁴。

「平和対峙の時期（1979-1987）」「民間交流時期（1987年から今まで）」においては、「1987年、我が国は戒厳令を解除し、民衆が大陸に親戚を訪ねることを開放し、两岸関係に新しい1ページを開いた。1991年、台湾政府は動員戡乱時期を終えたと宣布し、再び、中国共産党政権を叛乱団体とみなくなり、善意で対岸を解釈し、两岸の緊張の局面をゆるやかにした」⁶⁵と、台湾・大陸のそれまでの歴史事実を述べ、また、政治経済体制の差異、主権の問題について書いているが、あくまで事実を述べているのである。

以上の点から、1990年代以降は、台湾において三民主義を強調するより、台湾と中国との関係性を検討する視点が入った内容となっている。公民の教科書も、1990年代までは、道徳・倫理を

⁶¹同上,p.40。

⁶²同上,pp.92-93。

⁶³莊惠然・詹淑琴・陳嘉慧『普通高級中学 公民と社会 第三冊』（南一書局,2007）民国96年8月初版,p.140。

⁶⁴同上,p.141。

⁶⁵同上。

多く学び、それが台湾人として必要なものとされたが、それ以降は、道徳・倫理を学ぶ割合も減っている。1990年代以前の道徳・倫理の多くは伝統的な中国思想によるものであると同時に、それは、民族主義との関係で、台湾の中国大陸支配の必要性を論じるものであった。その後、大陸との関係についても、あくまで政治的な事実史を教え、これまでとは全く異なるタイプの教育が行われていく。

5. 現在の高校道徳教育

5.1. 公民と社会

2008年「普通高級中学課程綱要」によって、鄭毓浩『公民と社会』（2012年、南一書局）が作られた。4冊の教科書の第三冊が「道徳と法律規範」で、「本書は各科のはじめに、『学習目標』と趣味の漫画をつけ、生徒の学習の興味を引くほか、教科書の文章の構造をはっきり説明し、生徒が学習・理解しやすいようにした」（編輯大意）と、生徒の学びを重視している。第一冊が「自我、社会と文化」、第二冊が「政治と民主」、第三冊が「道徳と法律規範」、第四冊が「経済と永続的発展」（編輯大意）というように、道徳と法律の規範を一緒に学ぶようになっている。

第一課「私の成長と公民となる準備」は、心理学における「自我の成長」の説明、「通過儀礼」で成人式があり、「公民として必要な『権利意識』『責任感』『参加』」が重要であると書いている⁶⁶。第二課「人と自分の関係と分際」は、「自分の身の回りの人とのアタッチメント」の説明で、周囲の人と関わっていくことが、自分の成長にどのように影響を与えるのかについて書いている⁶⁷。

ここでは、第三冊第一課「道徳と社会規範」について、どのように「道徳と社会規範」についてまとめているのかを紹介したい。

- ・社会基本の意義と効果—社会規範の意義、社会規範の効果（衝突の解決は社会秩序を維持する、コミュニケーションを増進させることは社会の和解を促す、協力を促すことは社会の進歩となる）、社会規範の種類（習俗、宗教、道徳、法律）
- ・社会生活のなかの道徳—道徳とそのほかの社会規範の違い（道徳と習俗の違い、道徳と宗教の違い、道徳と法律の違い）、現代道徳の範囲と効果（現代道徳の範囲、現代道徳の効果）
- ・道徳の変遷と多元観—道徳的変遷（伝統社会の道徳観、現代社会の道徳観）、道徳的多元観（道徳判断の理論、道徳多元主義）⁶⁸

社会規範があることで道徳的な問題が解決できるのではなく、社会関係を持つことの必要性が書かれていたり、道徳的価値観の多様化についても説明している。これは現代の生徒に適した方法で、道徳規範と社会規範を丁寧に整理したものと言える。

⁶⁶鄭毓浩『公民と社会 第1冊』南一書局、中華民國99年8月初版、中華民國101年8月再版、pp.10 - 25。

⁶⁷同上、pp.32 - 35。

⁶⁸鄭毓浩『公民と社会 第3冊』南一書局、中華民國100年8月初版、中華民國102年8月再版、p.9。

5.2. 生命教育

李昱平等『普通高級中学 生命教育概論』（~~晁~~新図書公司、出版年不明）は、「教育部民国 94 年 發布の『普通高級中学選修科目生命教育類生命教育概論課程暫行綱要』により編集した」（編輯大意）という。生命教育の教育課程は、「生徒に生命の意義と価値を認識させ、進んで生命を鑑賞し、大事にし、並びに、その学習は、他人の命を包容、受け入れ、尊重するもので、一つ上に超越した、天人合一の生命教育課程を作り出すものである」⁶⁹という。

生命教育の目標は、下のように、単に生命を大事にするというだけでなく、死・性・結婚について具体的に考えさせるものである。

1. 生徒に生命教育の意義、目的、その意義を理解させる
2. 生徒に、哲学と人生の根本問題を認識させ、宗教の本質を探究し、宗教と個人の生命の関連を考えることができる
3. 生徒に生死に関連する課題を思考することを養成し、臨終に関する関心と悲しい状況に対する支援の基本理念を学ぶ
4. 生徒に道德の本質的能力を持つことを養成し、初歩の道德判断能力を発展させる
5. 生徒に性と結婚、生命倫理、科学技術倫理の基本倫理に関連する議題を理解・考えさせる
6. 生徒に知行合一の重要、困難なことを認知させ、進んで人格統整と霊の発展の道を模索させる⁷⁰

どのような背景で生命教育が進められたのか、それは「編輯大意」で、以下のように記されている。

政府は、全省教育庁が 1997 年末、中等学校生命教育計画を実施開始した。教育部は 2000 年 2 月に「生命教育專案小組」を設立することを宣布し、2001 年教育部長曾志朗は、「教育改革はただ制度と技術の改造だけを見るのではなく、さらに価値理念を高めることを重視すべきである。生命教育は生命の意義を提唱し、情意知行を統整し、人と生命に対する尊重を強調し、教育改革の最も中心となるものとすべきである」と言っている⁷¹。

2001 年 7 月に、「教育部生命教育中程計画の推進」が公布され、地方から中央まで、全面的に生命教育を推進した。2005 年に至り、教育部發布の「普通高級中学課程暫行綱要」の選修科目の中に生命教育類の選修課程を入れ、2006 学年度に実施された⁷²。

⁶⁹李昱平等『普通高級中学 生命教育概論』（呈+火）新図書公司、出版年不明、編輯大意。

⁷⁰同上。

⁷¹同上、p.3。

⁷²同上。

・生命教育における「人格統整」「霊」「宗教」

それでは、生命教育の意味するところは何か。

「教育部2005年発布の『普通高級中学選修科目生命教育類生命教育概論課程暫行綱要』において明らかにした生命教育は3つの方向を含めたものである。第一に、終局的なものに関わり・実践を持ち、人生哲学の構造にわたり、生死の課題に関わる宗教の議題を探索する。その次に、倫理的思考と反省、基本倫理学と応用倫理学の議題に及ぶ。最後に、知情意行の人格統整と心身の霊の成長を高める」⁷³と、最後には、「人格統整」「霊」という言葉が使われている。

「人格統整」については、「一種の深い意義ある生命の自覚、鋭敏な自省自覚、内に価値化された理念及び知情意行を統整すること」⁷⁴と書かれている。

第八章「人格統整と霊の発展」「第一節心理学の人性観」には、「行為主義学派」「人本主義学派」「超個人心理学派」(マッスル)⁷⁵について書かれ、また、「第三節人格の統整と人生の目的の関係」では、「マズロー(1969)の欲求に関わる図」によって「人格」の説明がされている⁷⁶。

「霊」については、「生命存在の本質と真正の自我、生理、情緒、理性の層を超越、統合することができる。霊の体験と必要を経て個体は絶えず自我を超越し、上に向かって高まり、他人、環境、世界と関係を建立する。進んで生命の本質と意義を体認し、円満な境界に至る」と論じられ、「生命存在である本当の私」が「霊」であると述べられている⁷⁷。

ここから、「生命教育」といえば、「自然」「命」を対象に論議するように思えるが、台湾においては「生命」に対する倫理学、さらには心理学における「霊」の紹介もするなど、あくまで学問的である。これ以外に宗教についても論じているが、単に宗教紹介をするだけでなく、人が宗教を必要としているとき、宗教がどのように関わるのかを書いている。

宗教については、小乗仏教、大乘仏教の違い、道教、キリスト教の生死の問題、宗教の教義について記してあり⁷⁸、宗教の価値観には、「人を救う価値観」「倫理道徳の価値観」「精神生活の価値観」「慈悲及び愛する心の価値観」「正義と平和の価値観」があるとされる⁷⁹。

宗教の信仰を説明するだけでなく宗教が必要であることも述べている。「二 臨終に関わることの発展」では、ホスピス、生命維持医療、延命措置について説明し、現在の臨終に関する最新の医療についても書かれている⁸⁰。

・道徳的判断力と道徳的实践

「第五課 道徳思考とよりよい選択」「第一節道徳の意義」は、「合法的なことが道徳的判断としては合わないことがある」「法律は、道徳のすべての方向性を含むことはできない」「法律の禁

⁷³同上, p.4.

⁷⁴同上, pp.2-3.

⁷⁵同上, p.151.

⁷⁶同上, p.156.

⁷⁷同上, p.7.

⁷⁸同上, pp.39-46.

⁷⁹同上, p.47.

⁸⁰同上, p.70.

止する行為は必ずしも不道德とはいえない」⁸¹と、法律と道德は求める方向が異なる場合があるという。つまり社会において、法律で罰せられることと、道義的に罰せられることが、ある部分は重なり、ある部分は異なる点が示されている。

「第二節道德的価値の特性」は、「道德的価値の主観性」「道德的価値の客観性」「道德的価値の相対性」「道德的価値の普遍性」があり、「誰が判断するのかによって、道德的価値は異なり、異なる価値観を持っていても、基本的にはある部分共有できる」としている⁸²。ここから、道德的価値観が一つではないことが明らかである。

道德的判断力については、「第三節 道德判断の時の考慮すべき要素」「一人に対する道德的判断」で、「(1) 良好な特性を備えるべきである」「(2) 徳性のある人は、良いことの『好い』のために、良いことを行うべきである」「(3) 人に対して道德的判断を進めるには、その心身の発展状況を考慮すべきである」⁸³と書いており、コールバーグの説も書かれている⁸⁴。

道德的判断力と道德的实践については関連があり、「道德的行為に対する道德的判断」について、「(1) どのような行為が道德的なのか、目的論と義務論の見方」⁸⁵「(2) 道德的行為をする際の道德的判断の関連規範と価値観念の影響」⁸⁶があり、「(3) 道德的行為そのもの、動機、状況から、いかに道德的判断を進めるのかを探る」⁸⁷ことについて、説明がなされている。そのうえで、「道德的行為に対して道德的判断を進めるとき、3つの要素「1. 行為者の動機と意図」「2. 行為そのもの」「3. 行為の状況」⁸⁸を考慮すべきだという。ほかに、「(4) 行為に関連する人、事、物の角度から、道德的判断を探る」⁸⁹、「(5) 道德規範の相互の衝突の判断と処理」⁹⁰も挙げられている。道德的行為に関わる相手によって道德的判断が異なり、様々な規範があるなかで、一つの規範のみでは、それ以外の人と対立が生じ、また、自分のなかで道德的葛藤が生じるということが説明されている。

5.3. キャリア教育

キャリア教育は、中国語で「生涯規画」と書く。

張徳聡主編『普通高級中学 生涯規画』（幼獅文化事業股份公司, 2006年7月初版）には、「2005年1月20日修正公布の普通中学選修科目『生涯規画』課程暫行綱要」によって編集されたと書かれている。この「生涯規画」の内容は、「生徒が個人の発展と将来の計画との関係を理解し、将来に関する資源を集め、将来の計画を立てる基本技術能力を増進させ、個人と生活環境の探索と決

⁸¹同上,p.82。

⁸²同上,p.86。

⁸³同上,p.90。

⁸⁴同上,p.92。

⁸⁵同上,p.93。

⁸⁶同上,p.94。

⁸⁷同上,p.96。

⁸⁸同上。

⁸⁹同上,p.97。

⁹⁰同上,p.99。

定を進めるよう導き、生徒が広く前向きな将来に対する態度や信念を備えるよう養成する」⁹¹と書かれ、次のような目次となっている。

目次

- 第一章 将来という道を歩いて行く—将来計画の概説
- 第二章 心の世界を表現する—自我認識
- 第三章 私らしさを出す—生活の役割と生活の形態
- 第四章 将来の図を描く—教育発展と大学の学部
- 第五章 自己のために外に出ていく—大学生活と職業選択
- 第六章 職場特攻隊—職業生活と社会の必要
- 第七章 将来に関する情報と将来に関する評価
- 第八章 小さい決定、大きな未来—方向性を決める風格と技術
- 第九章 夢を実現する—将来の行動と実践

教科書には、自分が何者かを理解し、将来の生活にどんなことが考えられるのか、そこから自分を理解していくという資料の提示が多く見られる。また、大学学部の紹介、どんな専門があるのか、大学生活と職業選択についても説明がある。単に進学に必要な知識を身につけるだけではなく、何のために大学に進学をするのか、職業との関連で考える章がある。

おわりに

これまで論じてきたように、現在の高校のカリキュラムのなかに三民主義教育はなく、道徳に関連した選択科目といえる「生命教育概論」、「生涯規画」においては、キャリア教育・進路指導に関わる内容がある。このように道徳教育で多様な内容を教えることになったのは、政治の変化が大きな理由であるが、これによって、道徳教育の枠組みが広くなり、生徒が前向きに学べるようになっていく。

台湾において、新しいカリキュラムは、生徒にどのように影響を与えているのだろうか。現在の学校では、「道徳の理論も知識も教え、そこに道徳的な行為も要求する授業」ではなく、「客観的に現状を把握し、自分がどのような道徳的判断をするのか、また、どのような道徳的行為をするのか」が重要となっている。そのため、生徒に大量の様々な情報を与え、そのなかで生徒は自分で思い、考え、判断し、最終的にどのように行動するのかを決めることが必要とされる。生徒は、ただ自分が考えるだけではなく、大量の情報に対して、分析的な視点も要求される。つまり、生徒は、自分自身と社会を客観的に分析できる視点、道徳的行為を行う場合、世の中にどのような影響を与えるのか、と考えることも重視される。

⁹¹張徳聡主編『普通高級中学 生涯規画』幼獅文化事業股份公司,民国95年7月初版,p.1.

ここから、現在、台湾の高校生は道德教育を受けているとも言えるが、一方で、その道德教育は、あるべき道德教育が提供されているのではなく、生徒が、自分で、どのように道德的な判断・実践をするのかを身につけていくことに焦点が当てられているといえる。

本研究は、日本道德教育学会第 89 回（平成 29 年度春季）大会（2017 年 7 月 2 日、於：千葉大学）自由研究章第 3 分科会で発表した「台湾における高校の道德教育」の原稿に加筆修正したものである。科研費基金 基盤研究（(C)（一般））課題番号 17K04564、研究代表者山田美香「東アジア儒教圏の道德教育と愛国心教育—日本の「特別の教科道德」を考えるために」（平成 29 年度～平成 33 年度）の研究成果の一部でもある。

参考文献

- ・郭嘉恵「戦後台湾高中公民教育之研究—析論公民科政治教材之变革興發展」国立台湾大学国家發展研究所 2003 年修士論文